

高根沢第二幼稚園 教職員自己評価

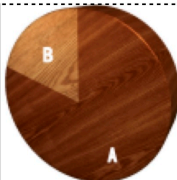
評価項目

A…よくできている
B…できている
C…できなかった

1. 保育(業務)の計画性

- 幼稚園教育要領（安全管理マニュアル）を理解している。
- 園の理念や教育方針を理解して保育（業務）に生かそうとしている。
- 安全で清潔感のある環境づくりを心がけている。
- 幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
- 自然体験の場を積極的に保育に導入できるように心がけている。

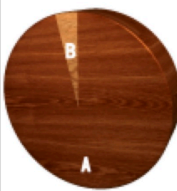
A…80% B…20% C…0%



2. 幼児への対応(危機管理)

- 体調が悪そうな時は速やかに情報共有を行い、静かに寝かせたり、検温をしたりするなど適切な処置を行なっている。
- 嘔吐物の処理用品や救急セットなどを、必要に応じて準備している。
- 万一事故やけがが発生した場合は、園長への報告と保護者への連絡、医師に診てもらうなどの適切な処置を速やかに行なっている。
- 危険が予測される場合にはスタッフ間で共有し、園児と一緒に見たり考えたりしながら、安全に対する気づきを高めるようにしている。
- スクールバス安全管理マニュアルを理解し、園児の取り残しが起こらないように確認している。
- プールあそびや園外保育では、適切な監視を行なっている。

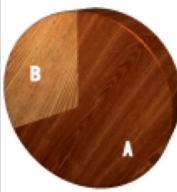
A…96% B…4% C…0%



3. 教師としての資質や能力・良識・適正

- 教職員らしい品位ある言葉と身だしなみ。正しい日本語の用法を心がけている。
- 誰に対しても感謝の気持ちを言葉などで表している。
- 自分の持ち場に限らず、園内外の清掃やバックヤードの整理整頓をしている。
- 締切のある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
- 締め切りのある仕事や提出物は、締め切りをきちんと守っている。
- 組織の一員としての心構え、職員でひとつのチームであることを意識している。
- 幼児と一緒に生活を創り出すことが楽しい。
- 私生活では、趣味や人との関わりを持つなど、自分の時間も大切にしている。
- 幼児の心のよりどころとして、スキンシップや言葉掛けに真心を添えている。

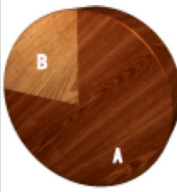
A…68% B…32% C…0%



4. 保護者への対応

- 園児・保護者の個人情報等の管理は厳守している。
- 正しい敬語・丁寧な言葉を用いて語りかけ、相手の話を落ち着いて聞いている。
- 園のすべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている。
- 担任は、クラスの様子や園児の成長、自身の考えを「10の姿」とともに保護者に伝えている。
- 幼児の心身で気になるところがある際には、誠意を持った伝達ができている。
- 園児間のトラブルによるケガについては、保護者の相互理解を促し、誤解を生じないよう、双方に状況を連絡している。

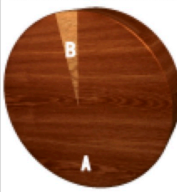
A…76% B…24% C…0%



5. 虐待およびハラスメントの防止

- 園児への身体及び心に配慮しながら愛情を持って関わっており、虐待的な指導はしていない。
- 職場内での有効な人間関係の構築に寄与し、ハラスメントにあたる行動や発言はしていない。
- 園児および教職員の心身の状態を気かけ、必要に応じて園長やチーフに相談している。

A…96% B…4% C…0%



5. 研修と研究

- 研修会や研究会に自己課題を持って参加している。
- アレルギーの対応、障害児支援、職員の連携・マネジメント。保護者対応の在り方、社会人としてのマナー、スキルの向上、保育計画など自己課題を持って自己研鑽している。

A…56% B…40% C…4%



令和5年度 学校関係者評価報告書

令和6年3月29日

学校法人高根沢育英会

高根沢第二幼稚園 学校関係者役員

1. 本園の教育目標

- ・美しいものに感動できる子ども
- ・身体を動かすあそびを楽しめる子ども
- ・様々な形で自分らしく表現できる子ども
- ・自分の考えや気づきを伝えられる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と本園における「教育課程」の結びつきを確認しながら、より質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程における「10の姿」との関連性を明確にしなが保育計画を行う	A	保育の様子を保護者に伝える際には、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿と照らし合わせるように工夫した。卒園までの段階的な育ちを感じられるよう、今後はドキュメンテーションや記録にも反映させたい。
2	教職員の資質向上のための園内研修を充実させる	A	自園のパーパスを作成し、園の社会的な存在価値を明言できるようにした。また、おむつはすしについて講師を招き、実践に結びつく園内研修ができた。勤務時間内にオンライン研修を受講する事例ができた。
3	地域とつながる園外保育	A	烏山線やLRTに乗車する保育を企画・実施して、園児の社会性や故郷への愛着を高める工夫をした。未就園児教室では、町内の生産者を訪ねてトマト狩りを実施。レストランでのピザ作りは新聞にも掲載された。

評価（A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果なし）

4. 総合的な評価結果

評 価	理 由
A	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、今後の園のあり方や保護者への情報発信の重要性が見えてきた。 次年度から始まる園舎の改築工事や認定こども園への移行を踏まえ、スタッフそれぞれが自園の独自性（ブランド）を理解して実践を試みた。

評価（A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果なし）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	環境意識	園児のあそび環境では、熱中症および感染症対策を継続。新園舎移行に向けて、園外活動を視野に入れた保育計画も検討。設備の破損を防ぎ、衛生的な保育施設を保持する意識を高める。
2	安全管理	災害時の対応やプール監視の方法をスタッフ全員が把握。遊具の安全管理は専門業者を導入して点検を継続。工事期間は、園児の安全確保を最優先に保育を行う。
3	幼小接続	自園のアプローチカリキュラムを作成して、町内のすべての小学校との共有を目指し、小学校のスタートカリキュラムに接続できるよう努める。Wakeの運動あそびによる交流を実践する。